

スナップエンドウおよびソラマメを加害するハモグリバエ類の種構成

マメ類の主産地である指宿市においてスナップエンドウとソラマメでは発生する主要種が異なる

背景・目的

スナップエンドウおよびソラマメ等ではハモグリバエ類による被害が深刻

→効果的な防除技術を確立するために、加害種および発生の実態を解明することが重要

成果の内容

スナップエンドウの被害



ソラマメの被害



幼虫が葉の内部を食害しながら発育するため、多発すると作物の生育を阻害。産地では「絵描き虫」とも言われる。

幼虫の被害痕では種の判別は不可能

主要種はナモグリバエ
(栽培初期に一次的にマメハモグリバエ)



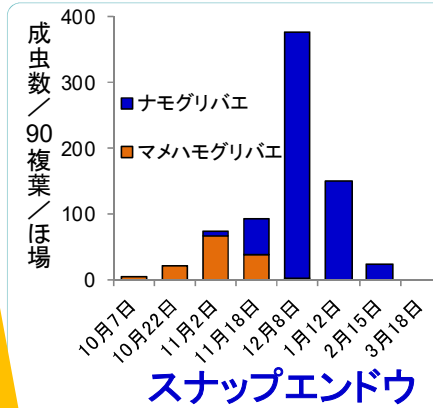
体全体が黒色

主要種は終始マメハモグリバエ

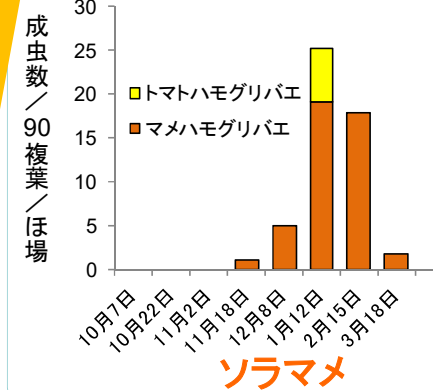


体には黄色が混じる

導入メリット



スナップエンドウ



ソラマメ



- ・効果的な殺虫剤選定
- ・発生時期に対応した効果的防除が可能になる。

期待される効果

効果的殺虫剤のスクリーニング等、発生種に対応した防除技術の確立

普及対象・範囲
指宿市のスナップエンドウおよびソラマメ栽培農家等

鹿児島県農業開発総合センター生産環境部病理昆虫研究室

平成27年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「登録農薬の少ない地域特産作物(マイナー作物)における天敵利用技術の確立(27009B)」にて実施